



# 子どもの語りを深く感じとる

## 第55回岩手県学童保育研究集会

県連協主催の第55回岩手県学童保育研究集会は10月27日に滝沢市の岩手山青少年交流の家で開催され、県内の学童保育の保護者、指導員ら176人が参加しました。午前中は全体講演を行い、午後は5つのテーマで分科会を行いました。今回は「みんなでつくる研修」をテーマに掲げ、すべての分科会を交流型で行いました。

### 開会行事

開会行事では、県連協の阿部勝会長があいさつし「学童保育は今、民間企業参入により各地で大きな問題が起こっている。子どもたちが安心して育つ学童保育を守り発展させるためには、学童保育に関わる大人が学び合い、交流し、地域のつながりを強くしていくことが大切だ」と述べました。基調報告では、宮井徳子事務局長が「国の子ども政策が大きく変わろうとしている今、地方の現場の最前線に立つ私たちが声を上げていくことが重要だ」と話しました。

### 全体講演

全体講演では岩手県立大学看護学部の福島裕子教授が「子どもたち(思春期・学童期)の性に大人はどう向き合うのか?」と題して講演。福島教授は児童養護施設での自身の実践に触れながら、思春期の性の健康問題や、性行動は自分を大切に思う気持ちと関係が深いという調査結果を紹介し、「子どものすこやかな成長は安心できる家庭が基盤となる」と述べました。

また、学童保育で子どもの性の悩みに向き合う時には「性についての話はその子の身体、存在そのものについての言葉。子どもの世界に立って、本気でよく見て、聞くことが大切」と目の前の子どもの身体を通した語りを深く感じ取ることの大切さを説きました。



### 分科会

#### 顔の見える関係どう築くか

第3分科会「幼保小との連携について大切にしたいこと」では、滝沢東小学校校長の黒瀬敬先生に講話を頂きました。先生は学校と学童の連携、共通理解が重要であると、「どの機関も目指しているのは子どもの健全育成である」と述べ、情報収集の大切さ、各関係機関との連携を密にすること、幼保との連携については小学校を「ハブ機関」として活用することなどを、助言されました。幼保小との連携事例を滝沢市のひかりの森学童が報告後、グループトークを行いました。「各学童、幼保小との連携方法は様々だが、学校との定期的な情報交換ができていないか否か、顔の見える関係性をどう構築していくかが重要だ」という意見が多く、「他の学童の事例を聞く良い機会になった」との感想がありました。

(世話人・水本真美)

#### 保護者と指導員の信頼関係醸成を

第5分科会「学童保育の制度を学ぼう」には19人が参加。県連協の役員が制度解説を行いました。参加者からは今年度創設された「常勤複数配置の補助基準」についての質問もありました。交流では「町が委託料算定根拠を示さない」、「コロナ禍で保護者会が開けず、その後も運営について話し合う場が持っていない」などの発言がありました。なかには「指導員と保護者の意思疎通が図れていない」との切実な声もありました。制度を活用して、よりよい運営を行っていく前提として、日頃から保護者と指導員が信頼関係を醸成していくことの大切さを感じました。

(世話人・宮井徳子)